

銀行

1. 評価対象企業（14 社）

めぶきフィナンシャルグループ、ゆうちょ銀行(新規)、コンコルディア・フィナンシャルグループ、新生銀行、あおぞら銀行、三菱UFJフィナンシャル・グループ、りそなホールディングス、三井住友トラスト・ホールディングス、三井住友フィナンシャルグループ、千葉銀行、ふくおかフィナンシャルグループ、静岡銀行、スルガ銀行、みずほフィナンシャルグループ
(証券コード協議会銘柄コード順)

2. 評価方法等

(1) 評価基準（スコアシート）の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	23
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	36
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	4	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	19
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	12
計		20	100

(注) 評価項目の内容および配点は 104 頁参照

(2) 評価実施（スコアシート記入）アナリストは 33 名（28 社）である。（105 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「評価対象ディスクロージャー評価比較総括表」（103 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**において内容変更 2 項目（うち 1 項目は項目名を併せて変更）、**説明会等**および**フェア・ディスクロージャー**において各 2 項目の配点変更を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 77.0 点（昨年度 75.7 点）となった。なお、対象企業の総合評価点の標準偏差は、6.0 点（昨年度 5.8 点）であった。
- ② 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度同率）、**説明会等**が 78%（昨年度 77%）、**フェア・ディスクロージャー**が 86%（昨年度 87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 76%（昨年度同率）、**自主的情報開示**が 67%（昨年度 60%）となった。**自主的情報開示**の分野が昨年度比 7 ポイント上昇し、他方、他の分野が昨年度と同水準に留まったことから、部門間の差は縮小したが、**自主的情報開示**が他の分野に比べ低水準の傾向は変わらない。
- ③ 評価項目について見ると、全 20 項目中、**フェア・ディスクロージャー**の全 4 項目を含め 7 項目が平均得点率で 80%以上となり、特に、次の 3 項目は、ほぼ全社において 90%以上の高い得点率（評価点／配点<以下省略>）の評価となった。
 - (a) 「経営陣および IR 部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか」（平均得点率 95%、得点率：100%2 社・95%8 社・90%4 社）

- (b)「投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか」(平均得点率 94%、得点率：95%10 社・90%台 4 社)
- (c)「決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか」(平均得点率 91%、得点率：95%5 社・90%7 社)
- ④ 一方、**自主的情報開示**の分野の次の評価項目は、昨年度に比べ上昇したものの、今年度も低い得点率となった。得点率が平均得点率に満たない企業については今後の改善が望まれる。
- ・「決算説明会、IR 部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について」
- A「積極的に実施していますか」(平均得点率 65%、得点率：40%台 5 社・60%台 4 社)
- B「その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか」(平均得点率 61%、得点率：40%台 5 社・50%台 1 社・60%台 3 社)
- ⑤ なお、複数の評価対象企業に対して
- (a) 説明会資料の事前ホーム・ページ掲載、同時ネット参加可能な説明会の開催、電話会議の再生に質疑応答を含めること
 - (b) 政策保有株について ROE 目標と整合的なより合理的な数値目標説明を望む声があった。

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三菱UFJフィナンシャル・グループ（ディスクロージャー優良企業〔4 回連続 6 回目〕、総合評価点 86.8 点〔昨年度比+1.4 点〕

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉87%）、説明会等（84%）、コーポレート・ガバナンス関連（88%）、自主的情報開示（91%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 2 位（91%）となった。昨年度の得点率と比べると、説明会等、コーポレート・ガバナンス関連、自主的情報開示の 3 分野において改善し、その他の 2 分野は同率となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、社長が決算説明会等において、経営課題とその対策や、投資家・マーケットの知りたいことについて分かりやすく説明し、質問にも丁寧に回答しているなど、経営陣の IR 姿勢が高い評価を受けた。また、IR 部門に業績関連およびそれ以外の定性情報も集積されており、問い合わせ等に対するレスポンスが早いことや、各種のミーティングを継続的に行い、投資家・アナリストとの対話の機会を増やす工夫をしていることなど、同部門の機能・姿勢も高く評価された。さらに、ディスクロージャーへの継続的な積極姿勢を行う機会を経営陣の間で共有しているほか、経営陣と投資家・アナリストとの接点を増やす工夫をしていることなど、同部門の機能が評価されたほか、ディスクロージャーへの継続的な積極姿勢など、IR の基本スタンスも高い評価となった。
- ③ 説明会等においては、投資家が知りたい情報を説明資料に盛り込んでおり、配布資料が充実している点や、部門収益の開示が詳細かつ継続的であることなど、説明会、インタビューにおける開示が高い評価となった。なお、部門別・地域別のバランスシート、税前利益や RORA、配賦資本の開示について改善を要望する声や、証券子会社・ノンバンク子会社の開示レベルの改善を要望する声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページを有効活用し必要な情報を発信しているほか、英文資料の同時開示など、この分野全体について高い評価を受けた。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がされているほか、資本政策、株主還元策が十分に説明されていることや、中期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況を説明し、達成のための具体的方策が説明されていることなどにより、この分野全体について高く評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「IR Day」を開催し、その際の説明資料が充実していたことや、経営陣が自らの言葉で説明する姿勢や経営戦略の詳細な説明など統合報告書の内容が充実していることが高く評価された。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められ

るので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 みずほフィナンシャルグループ（総合評価点 84.6 点〔昨年度比+1.4 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（84%）、コーポレート・ガバナンス関連（85%）、自主的情報開示（90%）が第2位、説明会等（81%）、フェア・ディスクロージャー（90%）が同得点第5位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、社長が決算説明会において経営方針、課題、その対策を自身の言葉で説明しているほか、自ら率先して IR 活動に取り組むなど、経営陣の IR 姿勢が高く評価された。また、IR 部門の担当者へのアクセスが容易であるなど、同部門の機能・姿勢も高い評価となった。さらに、トップマネジメントが積極的に投資家・アナリストと対話する機会を設けるなど、IR の基本スタンスも高く評価された。
- ③ 説明会等においては、説明会、インタビューにおける開示が評価された。なお、カンパニー別 ROE、配賦資本、RWA、当期利益の開示を要望する声や、カンパニーごとの業務純益の定義の継続を期待する声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢のほか、英文による情報提供など、この分野全体について評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がされているほか、資本政策、株主還元策が説明されていることや、中期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況を説明し、達成のための具体的方策が説明されていることなどにより、この分野全体について高く評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「IR Day」に登壇した社外取締役の説明が充実していたことや、統合報告書等の内容が高く評価された。

第3位 三井住友フィナンシャルグループ（総合評価点 82.8 点〔昨年度比+3.6 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（91%）、説明会等（83%）、自主的情報開示（85%）が第3位、経営陣の IR 姿勢等が第4位（80%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第4位（81%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、社長が決算説明会や IR ミーティングにおいて、新中期経営計画のポイントの説明など投資家の関心事項に配慮していることから、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、IR 部門の担当者や当該経営計画について有益な議論ができることなど、同部門の機能・姿勢も評価された。
- ③ 説明会等においては、説明会の配布資料が充実し、継続性があることや、事業部門別 ROE 目標の開示に踏み切ったことなど、説明会、インタビューにおける開示が評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、その取組姿勢のほか、ホーム・ページにおける情報提供、英文による情報提供など、この分野全体について評価を受けた。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がされているほか、中期経営計画で掲げた経営指標について進捗状況を説明し、達成のための具体的方策が説明されていることなどにより評価された。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「IR Day」の開催が評価された。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ リソナホールディングス（総合評価点 82.3 点〔昨年度比+3.3 点〕、第4位〔昨年度第5位〕）

- ① 同社は、5つの評価分野全ての得点率が昨年度を上回り、総合評価点および順位の上昇につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、決算説明会等において社長が経営方針等を十分に説明しているほか、投資家・アナリストと直接対話の機会を設けているなど、経営陣の IR 姿勢が評価された。また、IR 部門が個別取材に対して迅速かつ丁寧に対応していることなど、同部門の機能・姿勢も高く評価された。
- ③ コーポレート・ガバナンス関連においては、コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がされていることなどにより評価された。

以 上

平成29年度 ディスクロージャ－評価比較総括表 (銀行)

(単位:点)

順位	総合評価 (100点)	1. 経営陣の I R 姿勢、 I R 部門の機能、I R	2. 説明会、インタビュー、 説明資料等 における	3. フェア・ ディスクロージャー	評価項目 3 (配点 23点)		4. コーポレート・ガバナンスに関連 する情報	評価項目 3 (配点 12点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示	前回順位				
					評価点	順位		評価点	順位						
評価対象企業															
1	(8306) 三菱UFJフィナンシャル・グループ	86.8			20.0	1	30.1	1	9.1	2	16.7	1	10.9	1	1
2	(8411) みずほフィナンシャルグループ	84.6			19.3	2	29.3	5	9.0	5	16.2		10.8	2	2
3	(8316) 三井住友フィナンシャルグループ	82.8			18.4	4	29.7	3	9.1	2	15.4		10.2	3	4
4	(8308) りそなホールディングス	82.3			19.1	3	29.3	5	9.0	5	15.6		9.3	5	5
5	(8309) 三井住友トラスト・ホールディングス	79.4			17.8	6	29.8	2	9.1	2	15.1		7.6	9	3
6	(8331) 千葉銀行	78.5			17.5	7	27.9	9	8.6	8	14.8		9.7	4	6
7	(8303) 新生銀行	77.2			17.3	9	29.4	4	9.2	1	13.0		8.3	6	8
8	(8304) あおぞら銀行	76.6			18.0	5	28.4	7	8.8	7	15.4		6.0	11	9
9	(7186) コンコルディア・フィナンシャルグループ	75.1			17.4	8	28.2	8	8.4	9	14.8		6.3	10	7
10	(7167) めぶきフィナンシャルグループ	73.9			17.0	11	27.3	11	8.4	9	13.4		7.8	8	12
10	(8355) 静岡銀行	73.9			17.1	10	26.7	12	8.1	12	14.0		8.0	7	10
12	(8354) ふくおかフィナンシャルグループ	72.5			16.6	12	27.6	10	8.2	11	14.2		5.9	12	11
13	(7182) ゆうちょ銀行	69.1			16.0	13	26.5	13	8.1	12	12.9		5.6	14	未実施
14	(8358) スルガ銀行	65.5			16.0	13	24.7	14	7.5	14	11.4		5.9	12	13
	評価対象企業評価平均点	77.02			17.68		28.22		8.61		14.49		8.02		

(注1) 総合評価点と同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。

(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は6.0点 (昨年度5.8点) であった。

２９年度評価項目および配点（銀行）

１．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	配点 (23点)
(1) 経営陣のIR姿勢	
・ 経営トップが決算説明会等において経営方針等を十分に説明していますか。	10
(2) IR部門の機能・姿勢	
・ IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者とは有益なディスカッションができますか。 投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	6
(3) IRの基本スタンス	
・ 情報開示の後退はありませんか。 会社にとって都合の悪い情報や自社の弱点についても、積極的に開示する姿勢が見られますか。	7
２．説明会、インタビュー、説明資料等における開示	配点 (36点)
(1) 説明会、インタビューにおける開示（連・単の両決算）	
① 部門別・項目別等、損益の分析に必要なデータは、一貫して十分に開示・説明されていますか。	8
② 事業または財務上のリスク情報の開示が十分になされていますか。	8
③ 主な連結子会社、関連会社の損益、財務および資本関係等の状況は十分に説明されていますか（合併・提携・買収による業績貢献・進捗状況を含む）。	5
④ 自己資本規制をはじめとする金融規制に関連した開示（自主的開示を含む）が十分になされていますか。	5
(2) 説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
① 決算短信の同時配布資料の内容は十分ですか。	2
② 四半期の開示資料の内容は十分ですか。	6
(3) 決算発表	
・ 決算発表および説明会は迅速に行われていますか。	2
３．フェア・ディスクロージャー	配点 (10点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
① 経営陣およびIR部門が公平な情報開示につき、十分な注意を払っていますか。	2
② 投資家にとって重要と判断される事項の開示は、遅滞なく、十分に行われていますか。	2
(2) ホーム・ページにおける情報提供	
・ ホーム・ページを利用して有用な情報提供（過去の長期財務データ、決算説明会の資料、質疑応答の状況）を行っていますか。	4
(3) 英文による情報提供	
・ 英文による情報提供は迅速で、かつ充実していますか。	2
４．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	配点 (19点)
(1) コーポレートガバナンス・コード	
・ コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	7
(2) 資本政策、株主還元策の開示	
・ 資本政策、株主還元策が十分に説明されていますか。	6
(3) 目標とする経営指標等	
・ 中・長期経営計画（ROEなど目標とする経営指標等）を公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	6
５．各業種の状況に即した自主的な情報開示	配点 (12点)
① 決算説明会、IR部門とのミーティング以外の子会社説明会、事業部門説明会、施設見学会等について [過去1年間を目安に評価]	
A 積極的に実施していますか。	5
B その際の説明資料等が充実し、かつ十分に開示されていますか。	5
② アニュアルレポート、ディスクロージャー誌、ファクトブックの内容は充実していますか。	2

銀行専門部会委員

部 会 長	高 井 晃	大和証券
部会長代理	山 田 能伸	トイ証券
	鮫 島 豊喜	BNPパリバ証券
	高 宮 健	野村証券
	西 村 英一郎	野村アセットマネジメント
	花 岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
	簀 谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント

評価実施アナリスト（33名）

石 井 宏	三菱UFJ国際投信	角 田 成宏	損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント
伊 勢 和正	アセットマネジメント One	中 村 真一郎	SMBC 日興証券
伊 奈 伸一	UBS 証券	永 本 成克	MU 投資顧問
今 井 雅	アセットマネジメント One	西 原 里江	JPモルガン証券
岩 下 暢道	大和住銀投信投資顧問	西 村 英一郎	野村アセットマネジメント
大 槻 奈那	マネックス証券	橋 本 浩	富国生命投資顧問
川 縁 直樹	大和住銀投信投資顧問	花 岡 宏行	JPモルガン・アセット・マネジメント
工 藤 嵩泰	トイ証券	終 宏二	QUICK
古 木 謙太郎	シティグループ証券	摩 嶋 竜生	東海東京調査センター
佐々木 太	メリルリンチ日本証券	松 野 真央樹	みずほ証券
笹 島 勝人	三菱UFJモルガン・スタンレー証券	三 浦 毅司	クレディ・スイス証券
佐 藤 雅彦	SMBC 日興証券	水 野 年章	農林中金全共連アセットマネジメント
鮫 島 豊喜	BNPパリバ証券	宮 田 幸弘	三菱UFJ信託銀行
瀬 戸 浩	りそな銀行	簀 谷 和子	シュローダー・インベストメント・マネジメント
相 馬 正欣	三井住友信託銀行	山 田 能伸	トイ証券
高 井 晃	大和証券	米 澤 正祥	大和証券
高 宮 健	野村証券		

（注）上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。